

## 「河川砂防技術研究開発」(平成25年度採択)

### 事後評価結果

研究テーマ名	研究代表者	評価
流域貯留量を考慮した洪水予測手法の汎用性向上の研究 (研究期間: H25年～H26年)	室蘭工業大学 教授 中津川 誠	B
<b>&lt;研究概要&gt;</b> 本研究は、流域の湿潤状態を表す「流域貯留量」に応じた流出率の導入によって流出計算の再現性の向上および予測精度の向上を目的としたものである。ここでは「流域貯留量」を降雨、降積雪、融雪、蒸発散を包含する長期的な水循環モデルで定量化し、それに応じて貯留関数法の流出率を随時変化させる手法を導入した。その結果、とくに出水規模の大きな洪水や2山洪水の再現性、予測精度において、その改善効果が確認された。		
<b>&lt;事後評価コメント&gt;</b> 流域貯留量を考慮し、現在、実務で使用している流出モデルを改良することによって、予測精度の向上という点では改善の程度は限定的であるものの、流出モデルの再現性の向上に成功している。研究目的は概ね達成され、研究成果があったと言える。 今後、必ずしも十分に予測精度向上が図れていない原因について、更なる分析を期待する。 なお、今後さらに研究を進展させる過程において、計算プログラム等の成果の一部をオープン化することについても検討することを期待する。		

#### ※評価基準

- A: 研究目的は達成され、十分な研究成果があった
- B: 研究目的は概ね達成され、研究成果があった
- C: 一定の研究成果があった
- D: 研究成果があったとは言い難い